

鏡川流域パートナーシップだより No.84 R5.9.14



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

「地域編集の学校『まちを発見する力、書く力、編集する力』第1・2回を開催しました！」

鏡川流域関係人口講座の第3期にあたる「かがみがわフェスタ」では、開催期間を含む約4カ月間で、地域情報の編集などを行うための講座を開催します。

鏡川流域内外共通関係人口講座として、9月8日(金)・13日(水)・22日(金)の3日間で、「地域編集の学校『まちを発見する力、書く力、編集する力』」をオンラインにて開催しており、鏡川流域をテーマにした地域編集について学んでいます！

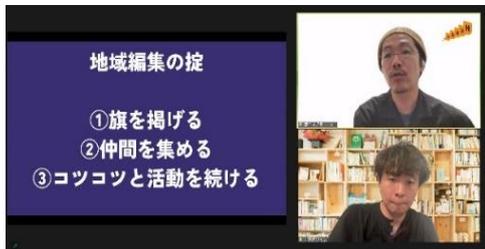


地域編集の学校【高知市鏡川編】
「まちを発見する力、書く力、編集する力」

これからの時代に必要なる力を学ぼう!!

第1回 「地域編集入門」 9月8日(金) 19:00
第2回 「地域編集の準備と企画」 9月13日(水) 19:00
第3回 「地域編集を実践する」 9月22日(金) 19:00

【参加対象】高知市内及び全国
【実施方法】オンライン



地域編集の掟

- ①旗を掲げる
- ②仲間を集める
- ③コツコツと活動を続ける



地域取材のSTEP10

- 1 取材の準備
- 2 取材依頼の依頼
- 3 取材依頼の返信
- 4 取材の準備
- 5 取材の準備
- 6 取材の準備
- 7 取材の準備
- 8 取材の準備
- 9 取材の準備
- 10 取材の準備

第1回目の講座は9月8日(金)に実施し、流域内外から約50名の参加がありました。HOST講師の土肥潤也さん(ファシリテーター、「みんなの図書館さんかく」館長など)の進行で、ゲスト講師の徳谷柿次郎さん(株式会社Huuuu代表取締役)から、地域編集の全体像についてのお話を伺いました！

Webメディア「ジモコロ」の編集者として全国を取材し、地域の魅力や課題を掘り起こしている徳谷さんならではの視点で、地域の捉え方やアウトプットの手法などを伝えてくださいました。

第2回目の講座は9月13日(水)に実施し、流域内外から約50名の参加がありました。HOST講師の土肥潤也さんの進行で、ゲスト講師の友光だんごさん(株式会社Huuuu取締役兼編集部長)から、取材依頼書の作り方などを教わりました！

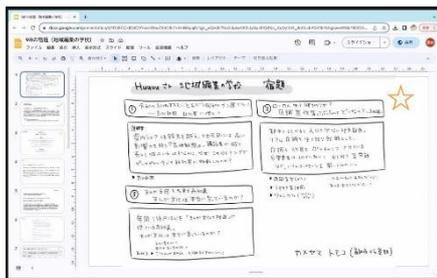
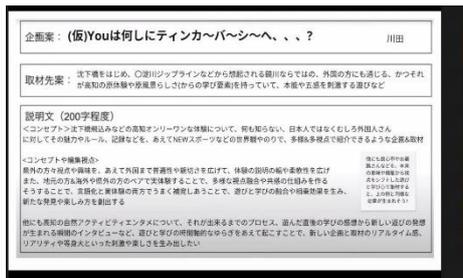


いい企画に必要な要素

- ・「仮説」がある
- ・「熱量」がある
- ・「間口」がある
- ・「新規性」がある
- ・「読者像」がある
- ・「実現性」がある



新規性の例

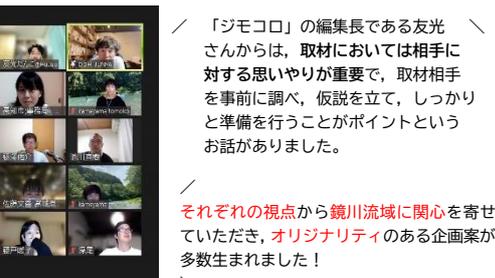



企画案：(仮)Youは何しにティンカ〜パシ〜へ、、、？

取材先： 宮下書房をはじめ、〇窪川ジップラインなどから提供される鏡川ならではの、外国の方にも通じる、かつそれが高知の原風景や歴史を感じさせる取材先を探っています。本報や五感を刺激する選び方など

説明文(200字程度)

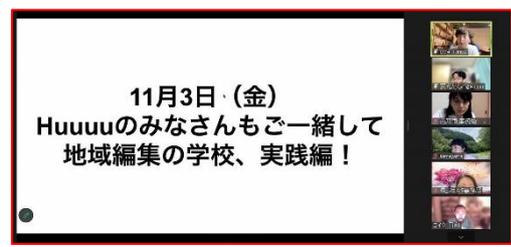
〇コンセプトと編集理念、あえて外国まで新規性を広げて、地域の原風景や歴史を伝える。地域の原風景や歴史を伝えることで、多様な視点からの取材を促す。また、地元の方言や海外の方へのアクセシビリティを高める。多様な視点からの取材を促す。また、地元の方言や海外の方へのアクセシビリティを高める。多様な視点からの取材を促す。また、地元の方言や海外の方へのアクセシビリティを高める。



「ジモコロ」の編集長である友光さんからは、取材においては相手に対する思いやりが重要で、取材相手を事前に調べ、仮説を立て、しっかりと準備を行うことがポイントというお話がありました。

それぞれの視点から鏡川流域に関心を寄せ、オリジナルティのある企画案が多数生まれました！

友光さんの講義のあと、参加者の皆さんに事前に考えていただいた鏡川流域の取材企画案に対して友光さんがコメントを寄せ、企画をブラッシュアップしました。まだ高知市や鏡川を訪れたことがない方も、**まちのコイン「ぼっちり」**の活用や**毎週木曜夜のオンライン交流会「かがみがわフェスタ weekly」**などを通して、鏡川流域の魅力に少しでも触れていただければと思います！来週の最終講座や11月3日(金)の高知訪問取材に向けて、参加者の皆さんや事務局を含め、みんなで準備を進めていきましょう！



11月3日(金)
Huuuuのみなさんも一緒に
地域編集の学校、実践編！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつながり、山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android